MCJP ぼくよむ文庫

よむ LIRE 文庫 ぼく BEAUCOUP MCJP

レベル 3

ひみつの電話番号

作・絵 森村佳有

パリ日本文化会館
Maison de la culture du Japon à Paris

ひみつの電話番号

作・絵　森村佳有

あやは十五さい、中学生。
学校は楽しい。
でも心にぽっかり穴があいている。
ずっと病気だったお母さんが、
この冬に死んでしまったから。
お母さんはねむるように目を閉じて、
それから目を開けなかった。

ある日、学校からの帰り道、駅で電車をまっていた。
目の前にポスターがあって、そこには電話番号が書いてあった。
「XX-XX-XX-34-24」
でも、電車が行った後、その番号はなかった。
その時は見まちがいかな、と思っただけだった。
次の日、歯医者に行った。
受付で名前と電話番号を書くために紙をもらった。
そこにだれかの電話番号が書いてあるように見えた。
「XX-XX-XX-34-24」
あやは、「えっ？」と、目をこすった。
だけど、何も書いてなかった。

それから何日かして、授業中。
ふと、外のほうを見ると、
まどに何かが映っている。
「XX-XX-XX-34-24」
あやは、おどろいて
反対がわを見た。
クラスメイトは
みんな前を見ている。
番号をまどに映している
生徒はいない。
もう一度、まどの方を見たら、
電話番号はなくなっていた。

それから、あやは、
その電話番号が
いろいろなところに
あらわれることに
気がついた。
近所のねこの首輪、
なにげなく聞こえた
テレビのコマーシャル。
まるで、あやに
「電話をかけて」
と言っているように。

とくにふしぎだったのは、
いなかのおばあちゃんの家に行った時。
近くの菜の花畑をさんぽしていると、
たくさんのちょうちょが飛んでいるのをみつけた。
右や左に飛ぶちょうちょを見ていたら、
信じられないことが起こった。
飛び回るちょうちょが、数字になったのだ。
あの電話番号と同じだった。

あやは思った。
「よし、あの番号に電話してみよう。」
電話をポケットから出して、
ドキドキしながらその数字をおした。
しばらく変な音がした後、
だれかの声が聞こえた。

「あやちゃん？」
あやの目になみだが浮かんだ。
「お母さんだ。」

それから、あやは何回も
お母さんと電話で話した。
猫のクッキーが
いなくなった時、
テストでいい点を取った時。
友だちとけんかした時…。
そんな時、ふしぎに、
あの電話番号があらわれる。
お母さんは、
いつもやさしく
話を聞いてくれた。

あやは思った。
「お母さんがいた時は
よかったな。
それにくらべて今は…。」

そんなある日、
お父さんが言った。
「あや、大丈夫か？
顔色がわるいぞ。」

あやが鏡を見ると、
そこに目の下が青い、
やせた女の子がいた。

お父さんがおばあちゃんに電話をかけて、
またおばあちゃんの家に行くことになった。
そして、あやは、また、あの菜の花畑をさんぽすることにした。
でも、さんぽしながら気が付いた。
「最近、お母さんの電話番号を見ていないな。」
そうしたらお母さんと話したくなって、
ポケットに手を入れて電話をさがした。
けれど、ない。
電話がない。
急いでおばあちゃんの家にもどって、あちこち電話をさがした。
けれど、持っていたはずの電話は、
まるで魔法にかかったように消えてしまった。
そして、あの電話番号も思い出せない。

まるで魔法にかかったように
消えてしまった。
そして、
あの電話番号も思い出せない。
電話番号が
どこかに書かれていないか、
あやは家中をさがした。
「ない、ない、ない…。」
そんなあやを
おばあちゃんは
びっくりしながら見ていた。

あやの話を聞いたおばあちゃんが静かに言った。
「ざんねんだけど、きっと、
お母さんにさよならを言う時が来たんだよ。」
あやもそんな気がしていたけれど、
やっぱり悲しい。
うつむいたあやのほおを
初夏の風がやさしくなでた。
風の中に
お母さんの手のぬくもりを
感じた。

作・絵　森村佳有

東京芸術大学芸術学科卒業。
ロンドン大学ゴールドスミス・カレッジ
テキスタイルアート学科修士課程修了。
2016年より日本語教育に専念。
創作活動や物語づくり、美術・音楽・料理などの体験を通じて、感じながら学ぶ日本語教育の研究と実践に取り組む。
アソシエーションサイトおよび個人のイラストサイトにて、アトリエでの活動や作品を紹介。

アソシエーションサイト：
https://www.aileat.com
個人サイト：
https://katexart.com

編集　石川芽生，蟻末 淳

ひみつの電話番号

2025年11月20日初版発行
作・絵　森村佳有

発行所　国際交流基金パリ日本文化会館日本語事業部

国際交流基金パリ日本文化会館日本語事業部